
このサイズに収まる象を連れてきてよ。

ひまわりまわり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

このサイズに収まる象を連れてきてよ。

【Nコード】

N5661K

【作者名】

ひまわりまわり

【あらすじ】

駅のホームって何故か別れ話してる人多いですよね。
だけど今回はバーでの別れ話のお話w

「このサイズに収まる象を連れてきてよ。」

彼女はそう言い、自分の丁度目の前あたりで、人差し指と親指で小さいスキマを作った。

「そのスキマ、何センチ？」僕は聞いた。

「約1センチね。」

つまり今回の話はこうだ。

”1センチに収まる象を連れてきてくれれば、再びつき合ってもいい”という事。

つまり断ってるんだ。「もう貴方とつき合う気は無い」ってね。僕はグラスに口をつけ、アルコールを口に含んだ。甘い酒だが、味なんかわからない。

もちろん生きてるの、人形とかはダメ、でもってパオーンとか鳴くやつでなきゃダメ。そんなムチャな事、平気言ってきやがる。

それもシレッと言うんだ。

悪びれもせず、楽しげでもなく。

「ゾウ虫は？」

「却下。」

虫はダメか。

「だってパオーンって鳴かないでしょ？」と彼女。いや、元彼女か。

「君を巨大化させればいい。」と僕。

「どうやって？」

「ドラえもんを拉致。でもってビッグライト。巨大化させれば通常サイズのゾウが君の指に入る。」

「ビッグライトって？」

「ドラの小道具。スモールライトの逆！」

「その前にのび太君にならないと。ヤツはのび太にしか分からないわよ。」

「だな。」

「貴方、性格はのび太くんよね。」

「どのヘンが？」

「いつも寝てばかり」

「…」

言葉が返せない。

「何やってもダメ」

正論。全く正しい。

「三日以上続いたものってある？」

「君への愛。」

彼女のうんざりする顔が見える。僕はこうしてさんざん彼女をうんざりさせてきたんだろう。そしてうんざりが拒絶に変わり、別れを決意したんだろうか。

「どうか、ゾウが欲しいの。1cm弱のゾウが欲しいの。ゾウじやなきゃダメなの。」

「巨大カマキリじゃダメ？」

「却下。つか、巨大カマキリならいるの？」

「来週、地球に襲来するらしいよ。さっきタレコミがあった。ウルトラ警備隊から。あれ逆に彼らが地球に怪獣呼んでるらしいんだ。たまに襲来が無いと、予算カットされるんだってサ。全部デキレス」

「来週地球は血祭り？」

「そう。今ウルトラマンいないし。だから一緒に逃げよう。無人島あたりに。」

「船はどーすんの？」

「ハイジャックする。」

「船は ” シージャック ” よ。」

そうだ、ハイジャックは飛行機だ。

こうして僕は時間を稼いでいる。彼女をよりを戻す糸口を見つけれないかと。言葉の端々から、僕が彼女の彼氏として返り咲ける方法がないかと探してみる。

けどダメみたいだ。無理みたいだ。

最初から到底無理だったみたいだ。

「ゾウは？」

言葉につまる。

「ゾウは無理なの？」

返す言葉が無い。

「ゾウは無理なのね。じゃ私の事は諦めるんだ。」

僕は何も返す言葉が無い。だってゾウは無理だし。

彼女がガタツと立ち上がり、テーブルの脇にくるっと丸めてある伝票を手に取り、指でぴっと僕の方に弾いた。

「じゃ、ここの払いおごって。それで許したげる。」

僕はレジでお金を払い、二人で店を出た。

僕の支払った金額は、980円 シャンディガフ二杯分だ。

店を出ると彼女の方から僕の腕にしがみついてきた。「寒いから」というのが理由だった。

「ゾウは？」

「もういい」

ゾウは飽きたそうだ。

風がぴゅーと吹く。枯れ葉がふわりと舞う。そして思い出したように地面にまた舞い降りる。居場所を確かめるように。

「あんたの行動力なんて最初から何も期待してないわよ。」

と彼女。諦めたように。吐き捨てるように。

「私の金額980円か。」

「もっと高いもの食ってる時に言えばよかったのに。」

「いいよ、980円で。」

僕は彼女の肩に腕を回したら、いいよ暑苦しいからと言われた。

そして二人は地下鉄に乗って、あの頃と同じ方向へ向かった。

居場所を確かめるように。

<他にもたくさん作品があります!>

お気軽にお越しください!(^▽^)/

http://nitijyo.sakura.ne.jp/
↑
トップページ

http://nitijyo.sakura.ne.jp/di

a
r
y
/
d
i
a
r
y
|
o
o
w
a
k
u
.h
t
m
l
↑
ロ
グ
ペ
ー
ジ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5661k/>

このサイズに収まる象を連れてきてよ。

2010年10月25日09時56分発行